

本事業の背景

我が国の子どもたちの体力は、昭和世代に比べ年々低下傾向を示してきた。さらに、近年のスクリーンタイムの増加やコロナ禍の影響を受け、日々の身体活動が大幅に制約され、体力はかなり低下してしまった。幼少期の運動遊びを通した身体活動は、単に子どもの体力増加だけでなく、心の強さや社会性など非認知能力の発達にも寄与することから、失いつつある運動習慣を取り戻す必要がある。

本事業の目的・趣旨

“運動遊び”を通じて、からだを動かすことが好きな子どもや、からだを動かすことが楽しいと感じる子どもを育て、生涯を通じてスポーツ・運動に親しむ基礎・基盤の構築を目指す。
決してトレーニング的にしないことが大原則！！

本事業の概要

岐阜県内5圏域（岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨地区）より実践市を選出し、その実践市からそれぞれ2～3園を推進園として認定したうえで、本プロジェクトを実践する。本プロジェクトの対象児は、令和4年度に年少児で、3年間継続して運動遊びを促進させ、その効果を検証していく。

なお、本プロジェクトは岐阜県と（公財）岐阜県スポーツ協会、そして、運動やスポーツ科学を専門とする県内大学教授陣の3者が協力して展開していく。

本事業の主な内容

- 1 推進園の園児を対象に、園における毎日の活動の中にアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）を活用した運動遊びを積極的に導入する。
- 2 週に数回、リズムダンス（足が速くなる魔法のダンス）を行う。
- 3 保育者に対する実技講習会及び定期的な実技指導と実践評価を行う。
- 4 保護者に対する講演会（YouTube配信含む）及び成果報告などの資料・情報提供を行い、子育てに役立ててもらう。
- 5 園児の運動能力測定と効果検証を行う。
- 6 公開授業を積極的に行い、全県下への普及を目指す。

本事業の成果と目標

どの子ども自ら進んで運動遊びにいそしみ、仲間とともに活発な生活を送る基盤を育む。その中で非認知能力の向上を目指し、強い心と高い社会性を養い、さらに基本的な生活習慣の定着に寄与する。

元気に遊び込んだ結果として、3年後の卒園時の基礎的運動能力が小学1年生レベルに到達することを目指す。

本事業の指導スタッフ（岐阜県内6大学教授陣）

全地区統括指導助言者		春日 晃章 教授 岐阜大学 【子ども発達学、博士（医学）】
岐阜地区（山県市）	内藤 譲 教授 岐阜聖徳学園大学短期大学部 【運動学、博士（経営情報科学）】	
	小椋 優作 講師 中部学院大学短期大学部 【発達発達学、博士（経営情報科学）】	
西濃地区（大垣市）	本田亜紀子 教授 朝日大学 【運動生理学、博士（体育学）】	
	篠田 知之 教授 岐阜協立大学 【運動生理学、修士（体育科学）】	
中濃地区（郡上市）	有川 一 教授 中部学院大学 【生理学、博士（医学）】	
	東海林沙貴 講師 中部学院大学 【体育科教育、博士（スポーツ科学）】	
東濃地区（土岐市）	小栗 和雄 教授 岐阜聖徳学園大学 【運動生理学、博士（医学）】	
	熊谷慎太郎 講師 岐阜聖徳学園大学 【バイオメカニクス、博士（学校教育学）】	
	横谷 淳 講師 中京学院大学 【体育学、学士（体育学）】	
飛騨地区（高山市）	春日 晃章 教授 岐阜大学 【子ども発達学、博士（医学）】	
	大坪 健太 講師 岐阜協立大学 【学校教育学、博士（学校教育学）】	

スポーツ運動好きな幼児育成プログラム展開事業



つよいぞ！ぎふっ子プロジェクト 令和6年度の 取り組み及び成果報告

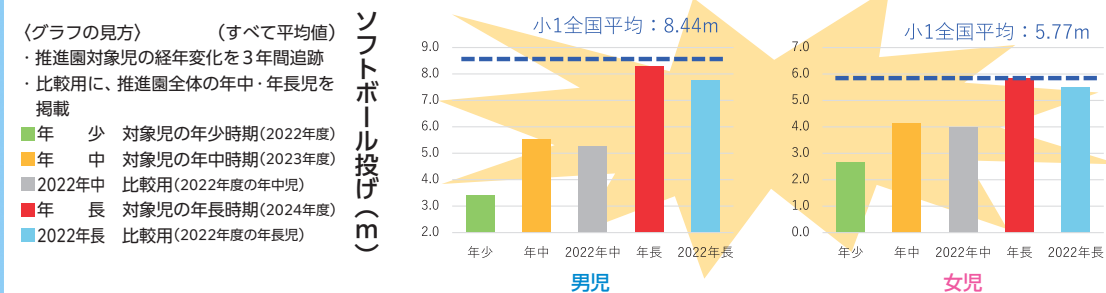


3年間の検証結果

本プロジェクトでは、約350名の幼児（対象児）に対して、「2022年度 年少」、「2023年度 年中」、そして「2024年度 年長」の3年間にわたって“運動遊び実践”と“体力テスト（走能力_25m走／跳躍能力_立ち幅跳び／投能力_ソフトボール投げ）”を行った。この3年間の結果として大きく2つの特徴がみられた。

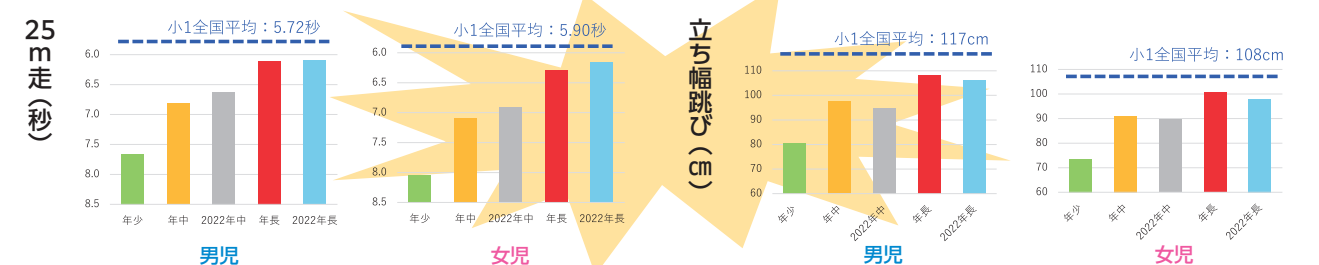
※プロジェクト内容の詳細は最終面をチェック

特徴① 投げる能力が、小学1年生レベルに！！



男女ともに、投能力は小学1年生の全国平均値と同水準まで向上していた。本プログラムの特徴として、2年目（年中）以降は投能力の向上を目標とし、「投げる運動」を中心としたアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）を実践した。その結果、この効果が数値として現れたと思われる。

特徴② 多様な運動遊びで体力がグングン向上！！



本プロジェクトでは、対象児の年中・年長期における体力の伸びを把握するため、2022年度の年中児と年長児（比較児）の体力を測定した。年長期における対象児と比較児の体力を比較すると、対象児の体力が高い結果であった。これは、幼児期の3年間にわたって多様な運動遊びを行った結果、対象児の体力は通常発達の範囲を超えて大きく向上したことを示している。

本事業推進園

とみおか保育園、伊自良保育園、高富保育園
綾里幼保園、三城幼保園、ゆりかご保育園
大中保育園、白鳥こども園
土岐津小学校附属幼稚園、泉小学校附属幼稚園、西部こども園
久々野保育園、高山南保育園、龍華保育園

本年度の活動の様子

3年目の体力測定

本プロジェクトの効果を継続的に検証するため、プロジェクト3年目の年度末に立ち幅跳び、ソフトボール投げ、25m走の測定を実施した。



リズムダンスの継続的な実施

1年目から実施しているオリジナルの「足が速くなる魔法のダンス」は、今年度も各園で継続的に実施された。子どもたちの活動量と運動強度を確保しながら、楽しくアップテンポな音楽に合わせて走りに必要な多様な運動を3年間にわたって経験した。



保育者による運動遊び実践を近隣の保育者に向けて公開

1年目は上記のダンス等によって走る力を伸ばし、2年目は投げる遊び等を通して投能力を高めることを目標に取り組んだ。3年目は、これまで続けてきたアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）を継続するとともに、近隣の幼稚園・保育園・こども園の保育者に向けて公開保育を行い、推進園以外の保育者が学べる場を設けた。



公開保育時の
実践動画



子育て保育情報誌「つよいぞ!ぎふっ子通信」の発行

保育者だけでなく、保護者の方にも、「幼児期の運動遊びの大切さ」や「運動のポイント」を知ってもらうために、本事業に関わる県内大学教員が専門分野を活かし、「つよいぞ!ぎふっ子通信」を月2回発行した。



本プロジェクトに関わった保護者と保育者の声

保護者の声



ぎふっ子プロジェクトを体験してから、家でも「足が速くなる魔法のダンス」や「ボール投げ」をしてよく動いていました。

先生に教えてもらった遊びを家や公園でもよく見せてくれ、楽しんで取り組んでいました。平日は難しいですが、休日はなるべく外で遊ぶようにして継続していきたいです。



保育者の声



今まで漠然としていた指導法もはっきりとすることができました。特にボール投げはみんなで楽しそうに成長していく姿がありました。

運動能力や体力の向上だけでなく、それ以上に身体を動かすことが好きになり、友達や保育士との遊びが発展し盛り上がるようになりました。



本事業指導スタッフと保育者との対談動画

出演

岐阜大学	春日 晃章	教授（全地区統括指導助言者）
中部学院大学短期大学部	小椋 優作	講師（岐阜地区指導助言者）
伊自良保育園	伊藤 園長	
とみおか保育園	杉山 園長	



運動遊び参考HP

本プロジェクトで実践した「アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）」や「足が速くなる魔法のダンス」について興味がある方は、以下の二次元コードからチェックしてみてください。

ACP 楽しい運動遊び集

デジタルブック



動画付き



足が速くなる魔法のダンス



次年度以降の取り組み「出前指導等講師派遣事業」

令和7年度以降は、本事業で構築された県内大学教授陣にご協力いただき、継続して岐阜県の子どもの体力底上げを図っていきたく考えています。その一環として、「ACP出前指導等講師派遣事業」を実施します。

出前指導等講師派遣事業とは？

本事業で関わった大学教員・学生が園に赴き、運動遊びや体力が高まるダンス等の指導を実施します。園児への直接指導や園指導者への指導方法のアドバイス、保護者の方々への講演会などを通して、運動好きな子どもたちを育成し、生涯を通じてスポーツに親しむための基礎作りを目的としています。